

平成29年度版

病院年報

第42巻



越谷市立病院

— smile, safety, satisfaction —

平成29年度病院年報の発刊にあたって

院長 丸 木 親

獨協医科大学埼玉医療センターの開設や順天堂大学の浦和美園への進出が予定され、本院のこの地域における立ち位置について考え直すべき時期が来ている。埼玉県の一部地域は比較的大きな自治体病院が多く、今まで超急性期から慢性期まで幅広い患者を受け入れて来た。近年の専門医制度や働き方改革の中で専門医の集約化、偏在是正という流れができ、特定の治療には施設基準や専門医の常勤などの必要性が厳しく問われ、条件を満たすためには多額の設備投資や人員確保の努力が必要となっている。病床稼働率が上がっても材料費や人件費にとられ、あまり収益につながらない。埼玉県の一部地域では、地方の大手病院グループが厚生連などの公的病院を買い取り、積極的に急性期医療に参入して来ている。中小規模の自治体が単独で、超急性期機能を持った総合病院を持つことは難しくなったのではないかと思う。

総合病院をそこら中に配置しては、人員不足はいつまでたっても解決はしない。本院には幸い産科・婦人科をはじめとして、立派に専門医養成施設となれる診療科はいくつか存在するが、全ての科がそのような状況ではないことは認めざるを得ない。そのような中、最も効果の上がる収益確保の方法は、前方連携を強め入院患者さんを広く受け入れ、後方の連携施設（超急性期を含む）や療養型病院、在宅介護に速やかに送ることで在院日数を減らし、病床の稼働率を上げていくことだけである。看護部の協力もあり、現在専門病棟という概念を無くし、院内総混合病棟化を進めていることが病床稼働率アップに繋がっているが、今後もこの様な努力が必須である。

自分の科や自分の病棟の患者ではないと言い切るためには、実は時間も手間もかかる。まして多くは多病の高齢者の方で、介入の余地がある部分は各科とも多い。短時間にトリアージュして頂くために総合診療医を配置したが、そのトリアージュの指示に従っていただくことはすでに院内の約束事項である。それでも担当科への入院が困難なら、診療部長の判断で稼働率の低い病棟の担当科にお願いするというのもすでに決まったルールだと再確認いただきたい。専門医でも診られる患者さん、他科病棟でも診られる患者さんは多い。

どうかいつもお願いしている様に、通常の時間内に来られた患者さんや紹介患者さんに対しては、手ぶらで帰す様な対応は絶対にしないで頂きたい。困って来られる患者さんに具体的な行動を指示して頂きたい。もちろん病診連携室にお願いして対応してもいいであろう。できれば時間外救急にも徐々に力を入れたいとは思っているが、やはり救急専従の夜勤医師の配置が必要となるので直ぐには実行不可能である。地域住民には、かかりつけ

医を持って頂くこと、転院する際に紹介状を持っていくことや専門医には予約しないとするには診てもらえないことなどをお願いし、理解を浸透させていかなくてはならない。

紹介率も逆紹介率も高い地域支援病院になっていくことは診療報酬上の利点からも目標ではあるが、本来の自治体病院の存在意義とは地域住民に頼られ、あそこに行けばなんとかしてもらえろという信頼を裏切らない病院であることと思う。そのためにも、職員全員が少なくとも時間内に来られた患者さんにはウエルカムなのだという態度で接していただくことが大切だと考える。当院の目指すところは地域医療連携の入り口でありハブとなる病院なのである。

病 院 の 理 念

私たちは地域の健康を守るため最良の医療を志向し、愛され信頼される医療を行なうにあたり、次のことを実践します。

－ smile , safety , satisfaction －

- 私たちは病院の使命を自覚し、患者様のニーズに応える医療を提供します。
- 私たちは医療の向上に努め、生命の尊厳を重視し安全な医療を提供します。
- 私たちは患者様の視点に立ち、患者様が満足できる医療を提供します。

平成14年4月1日制定

基 本 方 針

- 1) 救急医療を充実させ、地域住民の求める医療に積極的に応えます。
- 2) 医療連携を積極的に推進し、地域に根ざした医療を展開します。
- 3) 安全な医療を旨とし、医療の質・患者サービスの向上を図ります。
- 4) 確かな技術で、高度な医療を展開します。
- 5) 職員は使命感と誇りを持ち、夢と感動ある医療を実践します。
- 6) 安定した経営基盤を確立し、限りある医療資源を有効に活用します。
- 7) 「患者の権利と責務」を遵守し、患者様との信頼関係に結ばれた医療の提供を目指します。

平成19年4月1日制定

平成30年4月1日改定

目 次

第1章 概 要

(1) 病院の概要	1
(2) 病院の沿革	3
(3) 届出に関する事項	12
(4) 配置図等	14
(5) 病院機構図	17
(6) 施設の概要	19
(7) 主要医療機器等一覧	21

第2章 平成29年度業務

第1節 管理業務

(1) 職員に関すること	24
(2) 財務に関すること	26
(3) 業務の委託	34
(4) 光熱水費の状況	35

第2節 病院業務

(1) 患者数調べ	36
(2) 診療報酬に関すること	41
(3) 院内死亡数及び解剖数	42
(4) 臨床検査科業務	43
(5) 薬剤科業務	46
(6) 栄養科業務	50
(7) 放射線科業務	52
(8) 内視鏡室業務	58
(9) 中央手術室業務	59
(10) リハビリテーション科業務	60
(11) 臨床工学科業務	63
(12) 人間ドック集計	64
(13) 看護部業務	66
(14) 緩和ケア業務	70

第3章 研究業務

(1) 学会等における研究発表及び講演	71
(2) 著書及び論文発表	78

(3) 研究発表

1) 内 科	高 Ca 血症に伴う慢性腎不全の急性増悪に、尿管結石の合併を認めた 1 症例	79
2) 消化器科	進行型食道癌に対するフッ化ピリミジン系抗癌剤投与の検討	80
3) 小 児 科	ヘモグロビン血症による顔色不良を認めた新生児・乳児消化管 アレルギーの 1 例	84
4) 整形外科	頸椎椎間関節に発生し脊髄症状を呈した骨軟骨腫の 1 例 キーワード: cervical spine tumor 頸椎腫瘍・facet joint 椎間関節, osteochondroma 骨軟骨腫	87
5) 脳神経外科	ハイブリッドシャントシステム proGAV を用いた iNPH51 例の 治療経験	91
6) 産科・婦人科	妊娠後期に腹腔内出血を来した子宮内膜症合併妊娠の 2 例 キーワード: Pregnancy・Hemoperitoneum・Endometriosis Acute abdomen・SHiP(spontaneous haemoperitoneum in pregnancy)	95
7) 耳鼻咽喉科	Piezoelectric vibrator-stimulated potential and heart rate accelerations detected from the fetus	100
8) リハビリテーション科	急性期脳梗塞患者の初回端坐位時の血圧変動が臨床経過に及ぼす影響 The influence of blood pressure fluctuation at the initial sitting of acute ischemic stroke patients Key words: acute ischemic stroke, initial sitting, blood pressure fluctuation	107
9) 臨床検査科	<i>Yersinia enterocolitica</i> の感染後に反応性関節炎が疑われた一症例	109
10) 手術室担当	手術中の一人待機家族と複数待機家族のニードの相違を探る キーワード: 手術・一人待機家族・ニード	112
11) 4-2 病棟担当	確実なおっぱい体操のための助産師による教育的介入の効果 キーワード: おっぱい体操・初産褥婦・母乳分泌量・教育的介入	116

(4) 平成 29 年度ガス・メス納め集会より

1) 麻 酔 科	麻酔科・中央手術室手術統計	118
2) 循 環 器 科	循環器科年次報告	120
3) 外 科	外科手術統計	122
4) 小 児 科	小児科入院統計	123
5) 整形外科	整形外科手術統計	124
6) 脳神経外科	脳神経外科手術統計	126
7) 皮 膚 科	皮膚科手術統計	127
8) 泌 尿 器 科	泌尿器科手術統計	128
9) 産科・婦人科	産科・婦人科手術・分娩統計	129
10) 眼 科	眼科手術統計	131
11) 耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科手術統計	132
12) 臨床検査科・病理診断科	病理・細胞診・解剖統計	133
案内図		135